

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)共同住宅新築工事	階数	地上5F
建設地	愛知県蒲郡市	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	53 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年7月10日
敷地面積	2,783 m <sup>2</sup>	作成者	本多希巳枝
建築面積	665 m <sup>2</sup>	確認日	2017年9月19日
延床面積	2,525 m <sup>2</sup>	確認者	本多希巳枝



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	85%
③上記+②以外の	85%
④上記+	85%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	3.0
温熱環境	2.4
光・視環境	2.8
空気質環境	3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

機能性	3.1
耐用性	2.7
対応性	2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

建物外皮	4.0
自然エネ	2.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源	3.4
非再生材料	2.4
汚染物質	4.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

地球温暖化	3.6
地域環境	2.5
周辺環境	3.0

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

3.6

#### ③敷地内の緑化

2.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	2.5 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %

#### ②資源の有効活用

2.6

#### ④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



<b>3 対応性・更新性</b>					3.0	0.29	2.9	2.9	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり					-	-	2.8	2.8	-	0.50
1 階高のゆとり				住戸部分階高 2.92m以上	-	-		4.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ					-	-		1.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり					-	-		3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性					3.0	1.00				-
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17				-
2 給排水管の更新性					3.0	0.17				-
3 電気配線の更新性					3.0	0.11				-
4 通信配線の更新性					3.0	0.11				-
5 設備機器の更新性					3.0	0.22				-
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22				-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.30				2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50				-
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50				-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										3.3
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40				3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				非住宅部分[BPI][BPI <sub>m</sub> ]0.89、住戸部分「断熱等性能等級4」相当	4.0	0.33				4.0
2 自然エネルギー利用					2.0	0.17				2.0
3 設備システムの高効率化				建物全体[BPI][BPI <sub>m</sub> ]0.8	5.0	0.33				5.0
4 効率的運用					3.0	0.17				3.0
集合住宅以外の評価					-	-				-
4.1 モニタリング					-	-				-
4.2 運用管理体制					-	-				-
集合住宅の評価					3.0	1.00				-
4.1 モニタリング					3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制					3.0	0.50				-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30				2.9
1 水資源保護					3.4	0.15				3.4
1.1 節水				節水型便器採用	4.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60				-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00				-
2 雑排水等利用システム導入の有無					-	-				-
2 非再生性資源の使用量削減					2.4	0.63				2.4
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		-	3.0	0.20				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		-	1.0	0.20				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自			3.0	0.24				-
3 汚染物質含有材料の使用回避					4.0	0.22				4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				有害物質を含まない材料を使用	4.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.68				-
1 消火剤					-	-				-
2 発泡剤(断熱材等)				ODP=0、GWP=1	5.0	0.50				-
3 冷媒					3.0	0.50				-
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30				3.0
1 地球温暖化への配慮		①			3.6	0.33				3.6
2 地域環境への配慮					2.5	0.33				2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				-
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.2	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自		入居者用駐車スペース及び駐輪場確保、敷地内駐車可能空地多数	4.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40				-
1 騒音		独自			3.0	1.00				-
2 振動		独自			-	-				-
3 悪臭					-	-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40				-
1 風害の抑制					3.0	0.70				-
2 砂塵の抑制					-	-				-
3 日照障害の抑制					3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制					3.0	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				-

**重点項目スコアシート**  
**(仮称)共同住宅新築工事**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.6</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.6</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:2.5%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<p>本計画は市街地から少し離れた位置にある敷地に集合住宅を建設する計画で、周辺環境は住宅や店舗、ボートレース場といったさまざまな用途が混在する空間である。</p> <p>さまざまなものが混在する空間内に住戸としてのやすらぎを与えられる空間を設定。周辺建物の色合いになじみながらも独立して表現できる色合いを採用するなど独自性を持たせながら周辺に対し配慮した空間設定を目指している。</p>
Q1 室内環境	<p>外壁周り、屋根スラブ下に断熱材を施工することで外皮性能の向上を図った。</p>
Q2 サービス性能	<p>階高、天井高を高め設定している。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>植栽をエントランス付近に設定し敷地内環境の向上を図った。</p>
LR1 エネルギー	<p>複層ガラスを採用することで熱負荷の軽減を図った。 また照明器具に関してLEDを採用した。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>節水器具の採用。</p>
LR3 敷地外環境	<p>敷地内に適切な駐車台数を確保し交通における配慮を図った。</p>
その他	